M　超低温フリーザー　1式
ａ　最大で－80℃以上の能力を有すること。
ｂ　内容量は330Ｌ以上であること。
N　データ処理システム　1式
ａ　モニターは15.6型ワイドＴＦＴカラー液晶のノートパソコンであること。
ｂ　ＯＳはWindows８Pro（64ビット）と同等の性能を有していること。
ｃ　ハードディスクの容量は500ＧＢ以上､メモリーは２ＧＢ以上であること。
（Ⅱ　遺伝子検査システム　1式）
A　全自動核酸抽出増幅検査装置　1式
ａ　全自動で検体から核酸を抽出し、ターゲット遺伝子の増幅・検出が行えること。
ｂ　最大24検体以上の同時測定が可能なこと。
ｃ　ＤＮＡ項目、ＲＮＡ項目の同時測定が可能なこと。
ｄ　核酸の増幅はＰＣＲ法に対応していること。
B　ＰＣＲワークステーション　1式
ａ　作業スペースは幅700㎜、奥行き500㎜以上のスペースが確保されていること。
ｂ　外気をろ過し、ＵＶ処理をしてその後にＨＡＰＡフィルターを通してステーション内に送り込むことが可能なこと。
C　シーケンシング解析装置　1式
ａ　シーケンシング解析では５種類以上の泳動モードを使用できること。
ｂ　複数のアプリケーションの解析を、同一キャピラリー、ポリマーを使用して行うことができること。
ｃ　自動ポリマー充填システムを採用していること。
ｄ　24時間で250検体以上のサンプルを500塩基以上の配列を解析できること。
D　ゲル撮影装置　1式
ａ　電気泳動したアガロースゲルを紫外線照射によりＤＮＡを撮影できること。
ｂ　撮影された画像を附属のプリンターで印刷できること。
ｃ　画像を電子ファイルとして附属のパソコンに取り込み保存できること。
②　血液検査システム　一式
A　全自動血球分析・血液標本作製装置　2式
ａ　血液標本作製装置と製造元が同一であり、接続運用ができること。
ｂ　オートサンプラー測定モード及びマニュアル測定モード、体液測定モードを有していること。
ｃ　血球計数と白血球分類の同時測定における処理能力は１時間あたり200検体／１式以上を有し、血液標本作製装置は120検体／１式以上を有していること。
ｄ　１式は免震装置を付帯すること。
B　全自動血球分析装置　1式
ａ　処理能力は血球計数、白血球分類、網状赤血球同時測定で70検体／時間以上であること。
ｂ　サンプラーの検体吸引方式はキャップピアシング方式であること。
C　赤血球沈降速度測定装置　1式
ａ　１時間あたり100検体の測定が可能なこと。
D　自動顕微鏡・血液細胞分類装置　1式
ａ　血液塗抹標本上の白血球細胞を自動分類し、赤血球細胞の特性を解析できること。
ｂ　オートスライドローダーを有し、複数のサンプルの自動解析が行えること。
E　血液ガス分析装置　1式
ａ　サンプル導入はハンドフリーの自動吸引方式で、気泡の混入を防ぐ構造を有していること。
ｂ　超音波溶血処理及び多波長吸光度測定機能を有し妨害物質の影響を受けない機能を有すること。
F　生物顕微鏡システム　4式
ａ　生物顕微鏡本体は三眼鏡筒仕様で、顕微鏡用デジタルカメラの取り付けが可能であること。
ｂ　対物レンズを６個取り付け可能なレボルバであること。
ｃ　顕微鏡用デジタルカメラは有効画素数200万画素以上で、ＵＸＧＡ（1600ｘ1200）の解像度で1,670万色以上の色再現で表示・撮影ができること。
ｄ　顕微鏡用デジタルカメラはライブ画像表示で表示レートが15フレーム／秒（表示画素数1600ｘ1200時）以上で表示が可能なこと。
G　ディスカッション顕微鏡　1式
ａ　５人でのディスカッションが可能であること。
ｂ　対物レンズを６個取り付け可能なレボルバであること。
ｃ　ステージは対物レンズ及び標本保護のための機構を装備していること。
H　自動血液像染色装置　1式
ａ　末梢血、髄液に含まれる血液細胞を染色しスライド標本を作製すること。
ｂ　固定、染色から洗浄・乾燥まで５分以内で検鏡が可能なこと。
ｃ　クロスコンタミが発生しないこと。
I　遠心方式微量集細胞装置　1式
ａ　サンプルの細胞成分を集細胞しスライド標本を作製すること。
ｂ　100㎕の微量サンプルで集細胞が可能なこと。
③　生化学・免疫検査システム　一式
A　生化学検査システム　1式
ａ　生化学自動分析装置はトータルで比色項目は最大4800テスト／時間、電解質は最大で1800テスト／時間の処理能力を有していること。
ｂ　検体間のキャリーオーバーが極力低減されていること。
ｃ　反応容器は定期交換の必要がなく長期間使用可能なこと。
B　検体前処理搬送システム　1式
ａ　複数の生化学自動分析装置と接続可能なこと。
ｂ　検体前処理搬送システムの搬入能力は１：１分注部時で500検体／時間以上の検体処理ができること。
ｃ　分注部は、液体の液面検知が可能であること。
ｄ　分注部は一度に200㎕～2000㎕までの分注が可能なこと。
ｅ　分注部は飛沫防止機構を有すること。
ｆ　分注チップはチップの向きに関係なく仮設できること。
ｇ　処理済検体を400検体以上の検体収納が可能であること。
ｈ　消耗品は装置を稼働させたままで補充が可能なこと。
ｉ　検体を流す方向が左右選択可能であること。
ｊ　バックアップ装置を備えること。
C　免疫測定システム　1式
ａ　検体処理能力が200テスト／時間を有していること。
ｂ　100検体以上の架設が可能なこと。
ｃ　自動再検機能を有していること。
ｄ　メイン装置と同等の性能を有するバックアップ装置を備えること。
D　免震装置
ａ　指定された装置等に免震装置の設置を行うこと。
ｂ　免震装置の全高は10㎜以下であること。
ｃ　一平米あたり500kg以上の積載重量に耐え得ること。
ｄ　定期的なメンテナンスが不要であること。

2　資料及びコメントの提供方法　上記１⑵の物品に関する一般的な参考資料及び同⑸の要求要件等に関するコメント並びに提供可能なライブラリーに関する資料等の提供を招請する。
⑴　資料等の提供期限　平成26年６月16日17時00分（郵送の場合は必着のこと。）
⑵　提供先　〒889―2192 宮崎市学園木花台西一丁目１番地　国立大学法人宮崎大学財務部経理調達課経理調達係政府調達担当係長　迫口佳代子　電話0985―58―7574
3　説明書の交付　本公表に基づき応募する供給者に対して導入説明書を交付する。
⑴　交付期間　平成26年５月15日から平成26年６月16日まで。
⑵　交付場所　上記２⑵に同じ。
4　説明会の開催　本公表に基づく導入説明会を開催する。
⑴　開催日時　平成26年５月20日14時00分
⑵　開催場所　宮崎大学木花キャンパス事務局４階会議室